

国語

指定校推薦入試 2 期/専門・総合学科対象特待生選抜推薦入試 2 期/公募推薦入試 2 期 自己推薦 学力試験型入試 2 期

(総評)

【大問一】文章は敬体で、平易な語句が使用されている。対比となっている部分を適切に理解する必要がある。設問は、対比されている語句について説明させる問題や、文脈から空欄を補充したり語句を抜き出したりする問題、語句の意味を問う問題が出題されている。また、語句を言い換えさせる問題や指示語の示すところをまとめさせる問題などで、要約する能力が試されている。

【大問二】文章は比喩が多用され、思索的なものになっている。出題は文脈を踏まえた接続詞や語句の選択、理由の説明、本文と合致する内容の特定など、本文の理解について問う問題が中心である。比喩表現の解釈、ことわざの選択など、幅広い読解力が試されている。

【大問三】慣用句の空欄を補充する問題であり、標準的な語彙に関する出題である。

(出題分野・テーマ)

【大問一】現代文より、長田弘著『読書からはじまる』から出題。記憶をすることと、その目安や目印となる自分の位置を確認するものについて解説されている。情報の言葉は、自分の位置を知るための具体的な目安にはならない言葉であるという。そのため、メディアの進化とともに自分の位置を知ることは、容易にはならないと述べられている。

【大問二】現代文より、古井由吉著『先導獣の話』から出題。都会の群衆について、獣の群れと比較しながら、その動きや心理について考察されている。また、都会生活における「私」の心理的变化や不安、恐怖について、比喩を交えながら述べられている。

【大問三】慣用句の空欄を補充させる知識問題である。出題頻度の高いものを中心に、日頃から新聞や書籍の読解を行い、国語辞書等で語句の意味を確かめる習慣を身につけておくことが役に立つ。